

# 臨機応変

＜製作者＞  
瓜蒔中学校  
2年A組

## いつ進化するの？ 今でしょ!!!

**目指すもの**

この新聞を読んでいる皆さんは、自分のクラスの学校目標を達成して日々を過ごしているだろうか。クラス全員でその目標を目指して努力しているだろうか。クラスで「自分たちの目標は何か」ということを話し合っているだろうか。クラスで「自分たちの目標は何か」ということを話し合っているだろうか。クラスで「自分たちの目標は何か」ということを話し合っているだろうか。

学校の目標は、クラスが持っている目標である。大きな目標がある。それは、みんなが達成したい目標である。それは、みんなが達成したい目標である。それは、みんなが達成したい目標である。

## 鹿追ジオパーク

鹿追町は、シオバパークに指定された。自然豊かな鹿追町は、シオバパークに指定された。自然豊かな鹿追町は、シオバパークに指定された。自然豊かな鹿追町は、シオバパークに指定された。

19メートルの自然湖、浦か4000年もの昔から湧き出ている。成層を結んだ。



↑エノキウサギ

自分たちの成長を、クラスの担任の先生が担当が担当だったため、あえて進化させた。

この学校目標を決めたことによつて、私たちのクラスは、臨機応変に様々な行事をやり進めてきた。また、その1つ1つも吸収し、進化してきた。この学校目標は、3年生で達成してもいいです。実践していきたくて頑張っています。

(編者)

### 大繁殖中！然別湖の小さな大敵

皆さんは、特定外来生物という言葉を聞いたことがあるでしょうか。まず、外来生物とは、元々その地域にはいなかったが、何らかの理由で他の地域から入ってきた生物のことである。その中でも地域の生態系などに被害を及ぼすものが特定外来生物である。その1つ、フタサザリガニもその一種である。

近年、鹿追町の然別湖でも在来種である日本サリガニが激減するなか、フタサザリガニも大きくなっている。そして、この新地球学の授業を受けて、外来種の危険性がわかった。フタサザリガニは、身も大きくておいしいから、この新地球学の授業を受けて、外来種の危険性がわかった。フタサザリガニは、身も大きくておいしいから、この新地球学の授業を受けて、外来種の危険性がわかった。

(編者)

### 農業の町から発掘 再生可能エネルギー

バイオガスとはメタンを主成分とし、家庭の煮炊きや生ごみなどのバイオマスと言われるものを発酵させることで発生するガスのことである。

今、私たちの住む鹿追に、国内最大規模のバイオガスプラントの建設計画が進んでいる。1日当たりの最大産出処理量は、10万トンの2.2倍、年間発生量は15万トンにもなる。2015年までの共用開始を目指している。様々な新しい試みも行われる予定だ。バイオマスで余った熱を利用して、

バイオガスプラント見学

バイオガスプラント見学

バイオガスプラント見学

バイオガスとはメタンを主成分とし、家庭の煮炊きや生ごみなどのバイオマスと言われるものを発酵させることで発生するガスのことである。

今、私たちの住む鹿追に、国内最大規模のバイオガスプラントの建設計画が進んでいる。1日当たりの最大産出処理量は、10万トンの2.2倍、年間発生量は15万トンにもなる。2015年までの共用開始を目指している。様々な新しい試みも行われる予定だ。バイオマスで余った熱を利用して、

### 地元を取り組むを覚悟

私たちは新地球学の授業で、学んだこととして、1つは、バイオマスを使ったもの2つを比べてみる。

「対照実験」を行った。土にそれぞれ肥料を混ぜたものを作り、肥料以外の条件は変えない。収穫し食べ比べた結果、風味に大きな違いは見られなかった。従って、

バイオ肥料

バイオ肥料

バイオ肥料



# 炎のリベンジ

## 火おこしなだけに...

今年の火おこしは去年の数十倍燃えていた。去年の無念を晴らすため、そして恩恵を十倍返したためだ。……と、いつつ、今年も無難かもしれない。「今年も無難かもしれない」と囁いていた。そんな中、火おこしを始めたとき……ホロッと新しい何かを感じた。落ちたのは火種だった。それを見ていたみんなは、しばらく口をあけたまま固まっていたが、「急いで火をつけろー」生徒一人の言葉で急いで藤田君と若井君が乾いた草で

たきつけを繰り返して、火おこしを繰り返して、今年も火おこしは去年の数十倍燃えていた。去年の無念を晴らすため、そして恩恵を十倍返したためだ。……と、いつつ、今年も無難かもしれない。「今年も無難かもしれない」と囁いていた。そんな中、火おこしを始めたとき……ホロッと新しい何かを感じた。落ちたのは火種だった。それを見ていたみんなは、しばらく口をあけたまま固まっていたが、「急いで火をつけろー」生徒一人の言葉で急いで藤田君と若井君が乾いた草で



# バスレク

## バスの旅

7月11日、博りのバスにて、あ一人の生徒がUNOとほぼ同じUNOとほぼ同じという盛大なものであった。……と、いつつ、今年も無難かもしれない。「今年も無難かもしれない」と囁いていた。そんな中、火おこしを始めたとき……ホロッと新しい何かを感じた。落ちたのは火種だった。それを見ていたみんなは、しばらく口をあけたまま固まっていたが、「急いで火をつけろー」生徒一人の言葉で急いで藤田君と若井君が乾いた草で

上田君だった。早く抜けてしまった2人は楽しそうにボールをして、棒の道中では道の駅に寄ってソフトクリームを買って、みんなは楽しそうに食べていた。その後も、第一回中二回カードゲーム大会は続いた。中には寝ている人もいたが、決闘がつかないまま学校へいった。

しかし最後の最後まで楽しみ続けた今年A組のキャンパスは大成功した。来年には修学旅行という今年以上に移動距離の長い旅が待っている。そこで、ぜひ決闘をつけて2年A組最強のカード使いを決めたいものだ。

町内意見発表大会では今年も去年に続き米澤くんが三反轉くんが出席した。町内英語暗唱大会でも、去年に続き大野さんが出席した。町内意見発表大会では、二人とも素晴らしい発表を見せてくれた。その結果、三反轉くんは最優秀賞、米澤くんは優秀賞を受賞することができた。

町内のこの二つの大会では、ほかの三人の活躍も合わせて、四所中学校で合計六つの賞を受賞することができた。今年も去年と同様に、優秀な成果を残すことができた。

# 意見発表大会

## 英語暗唱大会

### まとめ

町内意見発表大会では今年も去年に続き米澤くんが三反轉くんが出席した。町内英語暗唱大会でも、去年に続き大野さんが出席した。町内意見発表大会では、二人とも素晴らしい発表を見せてくれた。その結果、三反轉くんは最優秀賞、米澤くんは優秀賞を受賞することができた。

町内のこの二つの大会では、ほかの三人の活躍も合わせて、四所中学校で合計六つの賞を受賞することができた。今年も去年と同様に、優秀な成果を残すことができた。



(カ)

(カ)

# スロープ

この秋、われらが鳳鳴中学校にスロープが開設された。つまりわれらの鳳鳴中学校もバリアフリー化が始まったのだ。このスロープは約一か月で完成した。

このスロープが作られることになった理由としては、来月から車いすの生徒が入学することや来客の方が車いすでも学校に来やすくなるために作られた。しかし、難点もある。スロープを作る場所の関係により通常のスロープよりも角度が急になってしまった。そのため車いすの方が自力で登れる、介助者が必要になってしまった。しかし、これがきっかけで、車いすの人でも来やすい学校になったらしいと聞く。

# かへ新聞

今年は昨年のかへ新聞係に新メンバーが1人加わり、計5人で活動を進めた。昨年は十勝で最優秀賞、全道大会で特別賞を受賞することができた。今年も全道の最優秀賞を目指して、夏休み中からインナーコーを準備するなど昨年よりも早めに活動を始めた。

文化祭特別飾りつけが始まったところには、デザインをする人と記事を書く人に分かれて手際よく作業を進めた。また、今年も図やグラフを用いて記事の内容をより分かりやすくし、昨年は時間的に余裕がなく細かいところの目を配っていたのでできなかった。その

ため今年ではできる作業を早めに行い、時間を有効に使う努力をした。そのおかげで、提出時間15分前に終わることができた。結果は十勝で優良賞だったが、1年生の時の反省を生かしより良いものになるように全員で協力し作り上げることができた。(美穂)

# 波乱万丈!! ~最高の文化祭~

今年の演劇は生徒20人で行った。夏は「こころ」という題材を使って演じた。これは四馬中学校の文化祭のためだけに作られた台本だ。キャストは総決めをオーディションで行った。2年生からは3人がオーディションに落ちた。オーディションからみんな本気で、壮絶なバトルになった。1人1人自分がどうしたら役になり得ることが出来るかと試行錯誤しながら一生懸命練習した。

スタッフは昨年先生方にもやってもらっていたデザイン賞の賞状製作を行なった。限られた時間の中で、生徒全員が進化を遂げた。全員の前が更に深まった。このメンバーでやる最初の演劇、最高のものを作らなければならない。来年もこの進化し、3年生最後の文化祭を最高のものにしてほしい。(のたか)

10月26日、四馬中学校文化祭が開催された。今年も全校生徒が昨年よりも大層に増え、盛大な文化祭になった。合唱や園遊、意見発表など全校または個人において生徒全員が活躍した。その中でも、夏休み前から計画してきた演劇としてかへ新聞は、昨年よりもパワーアップしたものをめざして登場した。



## 係活動

係活動はバザー係、ポスター・展示係、学校紹介係の3つである。バザー係は、当日の食費の準備等を行った。券はすべて自分でデザインしたため、お客さんからの反応が良かった。ポスター・展示係は文化祭の宣伝ポスター、シボルマークの制作を行った。今年はイタリヤの車マークをモチーフとした2年生の岡原君の作品が選ばれた。担当の人は細かいところまで丁寧に塗っていた。

学校紹介係は観客に楽しみな顔を見せてもらえようという目標をたて、準備がすすむ。さらにバザーアップできるような、頑張っている。園遊は、フットワークを始め、基礎打ち、ゲームなどの練習を行っている。(紗由)

## 陸上部

陸上部はこの春多くの新入部員を迎え、13人で活動を始めた。通信大会と対抗陸上大会の2つの大会は標準記録を突破すると、全道大会に選出することができた。でみんな真実の味を味わった。今年も3年生1人、2年生1人が全道大会に進出した。今は、対抗陸上大会を目標に3年生が引退したため、現在は2年生の新しい部長を中心に7人で活動している。来年度に向けてそれぞれの目標を達成することができるよう日々練習に励んでいる。(夏末)

バドミントン部は、男子5人、女子6人の合計11人で活動している。3年生は7月の大会で引退したため、それを受け継いだ部長の三反崎くんを中心として、さらにバザーアップできるように頑張っている。園遊は、フットワークを始め、基礎打ち、ゲームなどの練習を行っている。(紗由)

スケート部は冬だけに現れる幻の部活だ。現在は3人で活動しているが、人数が少ないため部活は帯広十勝オーバルに行っている。他の中学校の生徒と一緒に練習を行っている。練習メニューの中には、出場する距離に合わせた練習が始まっている。12月には全道大会、2月には全国大会が行われる予定だ。今年も四馬中学校のスケート部3人全員で全道大会、さらには全国大会へ行くように、日々練習を重ねている。(祐太)

## 総合文化部

文化祭の部活だ。そんな総合文化部は4月から3人の新入部員を迎え、11人で活動を始めた。夏の演劇会では町内の中学校、高校と協力して合同演劇を行った。活動内容は主に吹奏楽であるが、それ以外にも野菜を育てて調理をした。それを町内町の料理コンテストにも出品し、賞を頂いた。12月には1年間で1番大きなWinter Concert、2月には分団演、3月には選抜演奏会等がある。最高の演奏会できるように全力を尽くしたい。(夏末)

私たちが2年生は、これまで様々な行事や日常生活を通して、たくさんのことを学んできた。全員の見解が合わず、なかなかうまくいかないときもあったが、持ち前のパワーと園遊力、より良いものを作ろうと全力を尽くして来た。

この新聞は、私たちの日々の成果がたくさん詰まった作品である。これから3年生全員で、素晴らしい学校生活を送っていきたく思う。(製作者) 四馬中学校2年A組